

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 4 月 5 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻・博士課程 5 回生
氏名	横塚 彩

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
タイ王国、ペチャブリー県
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
IUCN インターン
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 1 月 11 日 ~ 平成 30 年 4 月 4 日 (85 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
IUCN Asia Regional Office, Kaeng Krachan National Park, Department of National Park
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>IUCN アジア地域事務所のインターンシップとして、Kaeng Krachan 国立公園に滞在した。Kaeng Krachan 国立公園は、1981 年に設立されたタイで一番大きな国立公園である。アジアゾウや、レオパードをはじめとした大型哺乳類の生息地としても知られているが、約 420 種の鳥類と 300 種のチョウ目も観察可能である。首都バンコクからは 180km と近場なことから週末は、多くの観光客がキャンプを楽しんでいる。</p> <p>今回のインターンは、国立公園管理局 (Department of National Park) の実施するアウトリーチ活動の補佐が主な業務であった。</p> <p>Kaeng Krachan 国立公園では、高校生、大学生に向けたネイチャースクールを積極的に行っており、Kaeng Krachan の森や川での動植物の観察や散策、一泊二日のキャンプなど、学生が自然に触れることを目的としたプログラムを実施している。大学生を対象としたキャンプでは、険しい森の道を片道 6km ほど歩き、ThorThip 滝に行ったり、中学生には目隠しをしながら森の中を歩いてもらい、野生動物の感覚を体験するといったユニークな企画も用意されていた。</p> <p>また、近年 Kaeng Krachan 国立公園内では、ゾウと住民の衝突がたびたび起きている。住民やレンジャーがゾウに傷つけられる事例だけでなく、農作物被害に怒った住民が、ゾウを殺したりと、深刻な状況が報告されている。そういった事態を打開すべく、ゾウの遊動域に住む住民を対象に、ゾウに遭遇した際取るべき行動や、ゾウとの衝突を避けるために国立公園がとっている措置などを説明する会が設けられていた。私は、説明の場へ三度ほど出席したが、各地域からどの程度の住民が参加しているのかはわからなかったが、かなり多くの住民が説明会に参加しており、各回ともほぼ満席だった。私のコンゴの調査地では、保全団体が住民に対する説明の場を設けている場面を見たことがなかったので、住民-公園管理局、保全団体が協力をしながら、野生動物の保全活動を行なっているのはとても新鮮な印象を受けた。</p> <p>国立公園内をパトロールするレンジャーのワークショップにも参加させていただいた。ライフルの使い方の実習や、5-8 名のグループに別れて、様々なシチュエーションでの対策を考え、各々が発表を行う場があったりと、ただ講演を聞くだけの受け身のプログラムではなく、みずから考えることを促す内容になっていた。Kaeng Krachan 国立公園内でも野生動物の密猟が報告されており、武装した密猟者から身を守るためにライフルの所持は必須だという。パトロールを行うことで密猟は抑制できるが、ライフルを所持することで、密猟者にはかなりのプレッシャーになるようだ。</p> <p>コンゴの調査地では、野生動物保護団体の事務所は、高い塀で囲まれており、門番も駐在しており、住民と保全関係者の交流の場はほとんどない。しかし、Kaeng Krachan 国立公園では、住民との話し合いの場や報告会を頻繁に行い、住民との良好な関係を築きながら公園管理を実施していた。</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



中学生対象のネイチャースクールの様子。



大学生に、野生動物の足跡を説明する様子。



野生ゾウの関する住民との意見交換会の様子。WCS と公園管理局との共同開催で実施された。(左も同様)



レンジャーのワークショップ。模擬ライフルで構え方などを学ぶ。



それぞれのシチュエーションに合わせて、各グループで、対策を考える様子。

6. その他 (特記事項など)

堀江正彦先生、Kaeng Krachan 国立公園公園管理局のみなさま、WCSのみなさま、そしてたくさんの時間を共有してくれたルームメイトのみなさんに感謝申し上げます。ありがとうございました。